

未来ファンドおうみ助成事業2013採択団体一覧

事業区分	団 体 名	事業名	助成金(円)
おうみNPO活動基金助成事業	特定非営利活動法人 近江八幡市 手をつなぐ育成会	手をつなぐ広場事業	517,000
	特定非営利活動法人 マイママ・セラ ピー	妊産婦レスパイトケアとゆりかごタクシーの運行	1,348,000
びわこ市民活動 応援基金助成 事業	どろんこの会	どろんこキッズ農体験	79,000
	認定特定非営利活動法人 びわ湖ト ラスト	湖岸に漂着したゴミの分別調査回収 事業	290,000
びわ湖の日基金 助成事業	鴨と蛍の里づくりグループ	米原市内及び長浜市内での自然観 察会実施	215,000
	南滋賀の里山を守る会	先祖から伝わる南滋賀の里山再生 を通じ、地域の連帯と活性化をはか る。	105,000
積水化成品基 金助成事業	特定非営利活動法人甲賀の環境・ 里山元気会	元気な里山でみんなみんな元気 になあれ！	200,000
おうみチャレンジ 基金助成事業	認定特定非営利活動法人 おうみ犯 罪被害者支援センター	財政的自立を目指すための財源安 定化事業	240,000

手をつなぐ広場事業 成果報告書

特定非営利活動法人近江八幡市手をつなぐ育成会

1. 目標

手をつなぐ広場事業に新たな保護者の参加を呼びかけ、グループワーク等で保護者の方からの日頃の悩みや課題などの話に共感し共有することにより、保護者および障がい児の孤立防止を図る。

2. 目標の達成度

【拠点整備（空調機器設置）】

市内の3業者から見積もりを取り寄せ、最低価格の業者に空調機器取り付け工事を依頼。6月1日設置工事完了。

【交流会】

(1) 第1回

1. 日時 平成25年6月10日（月）11:00～12:00

2. 参加者 18名

3. 内容 オープンスペースの初日と合わせて交流会を実施し、予定以上にたくさんの方に参加いただいた。市内全域から年齢も幅広く来ていただき、それぞれの悩みや思いをきくことができた。

(2) 第2回

1. 日時 平成25年11月11日（月）10:00～12:00

2. 参加者 9名

3. 内容 中学生の子どもさんをもつ方なども参加していただき、参加者の年齢層も少し幅広かった。参加者それぞれの、日頃の子育ての悩みや思いなど、得に特別支援学級についてのテーマを中心に話された。

【勉強会】

(1) 第1回（特別支援学級ってどんなところ）

1. 日時 平成25年9月14日（土）13:00～15:00

2. 講師 南先生（教育関係者）

3. 参加者 14名

4. 内容 特別支援学級で教師の経験があり、また、自身の子どもが障がいがあり、障がいのある子を育児した経験がある立場でもある講師を招き、特別支援学級の様子などについて教えていただいた。ともに関心深い良い話が聞けました。

(2) 第2回（作業所見学会と交流会）

1. 日時 平成26年2月17日（月）10:00～13:30

2. 参加者 16名

3. 内容 近江八幡市内にある「障害者支援事業所いきいき」を見学し、担当のからの説明と質問に答えてもらう。交流会では、作業所のお弁当などを食べながらそれぞれの思いを語る事ができた。



【オープンスペース】

(1) オープンスペース

1. 開催日 毎週1回(月・水) 10:00~12:00
14:30~16:30(合計28回)

2. 参加者 平均3~4組の親子が参加。

3. 内容 一般的に開催されている親子がつどう事業に障がいをもつ親子は出向くことにハードルが高く、孤立しがちになる傾向があるため、保護者同士または子ども同士が互いに集える場の提供を行いました。



(2) おしゃべりカフェ

1. 開催日 毎月第4水曜日 10:00~12:00(合計4回)

2. 参加者 平均5~6名程度の保護者が参加。

3. 内容 子どもたちが幼稚園や学校に通っている間に保護者でお茶をのみながら、気軽におしゃべりをし、普段のストレス発散のひとつとして来てもらいました。

3. 活動の成果

オープンスペースでは、幼稚園の後等に保護者と子どものみで家で過ごす時間を、オープンスペースに來訪していただき、保護者同士または子ども同士で交流していただけました。一度來られて良かった方は何度も利用してくれるなど、リピーターも多数おられました。

おしゃべりカフェでは、子どものいない時間にゆっくりと普段の思いや悩みなどを語ることでストレスの軽減が図られる様子が見られました。

交流会では、日頃の悩みや困っていることなどを話される方が多く、交流や情報を求めて來られる方が多かったように思われます。このような場をもつことで、保護者同士の繋がりももつことができ、それぞれの思いが共有できるなど、保護者が語る場の必要性があることが分かりました。

勉強会では、テーマを持って講師のことを招くことで、そのテーマで悩まれている方が集まり、それぞれのかかえている悩みについて講師の方から丁寧に助言や思いを話いただきました。そのことで、悩みを解消していくきっかけになったと思われます。

手をつなぐ広場事業を実施することで、育成会の会員が26名増加しました。

また、若年の会員およびスタッフが增えたことで、育成会の役員および事務員、スタッフの高齡化問題を解決し、組織全体の若返りを図ることができた。

4. 今後の課題 他

障がいの種別によっては、まだまだ初めての場所は参加しづらいという声があり、事業内容や広報、参加しやすい場所の工夫が必要と感じられました。

また、対象の子どもが乳幼児から中高生と年齢層が広いことや、障がいの違いにより悩みもそれぞれ違うため、今後は対象年齢ごとに分けて勉強会を実施するなどの工夫が必要と感じました。

未来ファンドおうみ助成事業2013

おうみNPO活動基金助成事業 ～ 成果報告 ～

特定非営利活動法人 マイママ・セラピー

1-1 計画の目標

育児支援の多くが、母親としての未経験の不安を中心に活動が展開されていることが多いが、実は産後の女性が抱える不安には自分自身の生き方に不安を抱えている人が多いことがアンケート結果から明らかとなった。こうした結果を踏まえ、心身の回復をめざし、育児にかかる学びや経験、交流、そして友達を作りながら、自分のライフスタイルを構築していくことを目的に妊娠期～産後女性のサポートを継続的、専門的、早期に行うための寺子屋保健室設置をし、そこで産後ケアとしてのレスパイトケアを行うこと、妊産婦が安心して利用できるタクシーを運行させるシステムを構築すること、産後ケアを中心としたプログラムを利用した育児支援専門員養成を行うこととした。

1-2 目標の達成度

(1) 保健室の運営

設置場所 大津市中央1-8-6 マイママhouse

開設日 月曜日～金曜日 第3土曜日 10時～16時

利用者数 平成2013年4月1日～2014年3月31日 延べ4,051人

託児利用者 延べ175人 教室参加者 延べ169人

(2) ゆりかごタクシー

母親100人とタクシードライバーにアンケートの実施した結果をもとに、滋賀県産科婦人科医会・研修会講師として滋賀県看護協会助産師職能委員・緊急時対応応援として大津市消防局・大津市民病院・滋賀県健康福祉部・大津市健康推進課をメンバーとして委員会設置。

事務局の役割、委員会の役割、登録の方法、研修会の在り方をはじめ、利用手順、登録方法、研修会のマニュアル内容、登録認定と修了証書の内容などを具体化するために3回の協議を重ね、25年10月10日に運行開始した。

(3) 育児支援専門員養成

シニア世代の人を対象にした育児講座を開催。参加者3人 講座と実習33時間

2 活動の成果

- ① これまで個人的な関係でお手伝いをお願いすることが多かった助産師に看護協会として組織的支援を受けることができたことにより、26年度に計画している「ゆりかごケア」についても協働体制がとれる可能性が出てきた。
- ② 滋賀県産科婦人科医会会長の高橋健太郎先生とのつながりにより関係機関とのネットワークを拡大することができた。
- ③ マイママ・セラピーとしては、新しい事業を運行するに当たり、限られた人材の中で担当配置

の工面や資金繰りなど大きな転換を強いられ年末は混乱したが徐々に軌道に乗り作業も順調になった。登録者とマタニティセットの売上げが順調に伸びたことがスタッフのモチベーションを上げていたところもあった。

- ④ 26年3月31日現在、すでに350人を超える登録があり、利用者も増えている。2月に実施した登録者アンケートでは「このシステムを維持してほしい」「安心できた」「これからも使いたい」という喜びの声が届いている。発案から半年足らずで運行ができたのは多くの組織が協働で取り組んだ結果であるといえる。なお、26年4月から登録受付事務が滋賀県タクシー協会へ移行し、地域拡大に向けて動き出した。

3 今後の課題その他

① レスパイトケアの課題

*マイママ house ではママたちの第二の実家として利用してもらうことができるよう応援しているが、年々、マイママ house を利用する人が増加しているおり需要の増加に伴いスタッフの増員及び拠点の増加が必要な時期に来ているのではという思いから、今後の予定としては、実際に保健室拡大ができるのかについて検討を深め、現在の事業が拡大できるようなモデルを構築したいと思う。

② ゆりかごタクシーについて

*資金援助がタクシー会社などからなかったことは残念だった。

③ 育児支援専門員養成

*シニア世代の育児講座は単発ではなく継続的なプログラムにしたことが原因か、参加者が少なくて残念だった。受講された方の反応は良かった。保健室拡大に向けては人材育成と確保は必要であると思われるが、実施プログラムの見直しが必要である。

- ④ マイママ・セラピーが事業を実施するときに必要な予算がどの程度必要でそのために「売上げ」をどのようにあげていくかについてこれまで以上に議論をした。その結果スタッフ間に資金の動きについては明確に出せたように感じる1年だった。



「どろんこキッズ農体験」成果報告

どろんこの会

1-1 計画の目標

「地域の子どもたちは地域で育てる」をモットーに子どもたちに普段の学校生活のなかでは体験することが出来ない農体験を主として、団体のメンバーが持つ技術や培われてきた経験・知恵を地域の子どもたちに提供し、次世代へと継承していくことをねらいとし、活動を通して、生まれる豊かなところと健やかな成長の促進を目標とする。

1-2 目標の達成度

第1回 さつまいもの苗植えと田植え体験

開催日時：平成25年5月18日（土）9：00～13：00

開催場所：どろんこ農園

参加者数：児童38名 保護者5名

実施内容：農園にて、絶好の田植え日和の中、さつまいもの苗植えと田植え体験を実施。



第2回 玉ねぎの収穫とピザづくり体験

開催日時：平成25年6月15日（土）10：00～13：00

開催場所：どろんこ農園および近江公民館調理室

参加者数：児童24名 保護者5名

実施内容：農園にて玉ねぎの収穫と採れたての玉ねぎを使ってのピザづくりを実施。

第3回 稲刈りとさつまいもの収穫

開催日時：平成25年9月28日（土）9：00～11：00

開催場所：どろんこ農園

参加者数：児童38名 保護者6名

実施内容：農園で春に植え、大きく育った稲穂とさつまいもの収穫を実施。



第4回 どろんこ農園祭

開催日時：平成25年9月28日（土）11：00～15：00

開催場所：近江公民館

参加者数：児童38名含む 約250名

実施内容：稲刈りとさつまいもの収穫の後、近江公民館にて どろんこ農園祭を実施。

第5回 もちつき体験

開催日時：平成26年1月7日（金）13:00～14:30

開催場所：近江公民館

参加者数：児童18名 保護者 0名

実施内容：年明けに公民館にてお正月の恒例行事である“もちつき体験”を実施。

第6回 収穫感謝祭（お菓子の家づくり）

開催日時：平成26年2月1日（土）10:00～13:00

開催場所：近江公民館和室

参加者数：児童29名 保護者 0名

実施内容：収穫感謝祭として、バレンタインデーに向けた“お菓子の家づくり”に挑戦。



2. 活動の成果

各活動内容とも、毎回多くの子どもたちの参加があり、子ども達が当事業を通じて、保護者の方や地域住民の皆さん、そして当団体や事業に関わるスタッフ相互のコミュニケーションが深まっていくことが実感できた。多くのボランティアの皆さんが勢力的に協力してくださり、少人数で活動している当団体にとって大きなチカラとなった。

当事業により「地域の子どもは地域で育てる」という当団体の目的を達成。

何より、会員と事業に携わっていただいた方々の暖かいご支援が当事業の実施に至った最大の理由である。

3. 今後の課題

今後も子どもたちの健全育成をねらいとし、それぞれの繋がりによって新たなコミュニティを生んで増えていくことで、よりよい関係を図りながらさまざまな“農体験”を実施します。当事業の経験を糧に会のメンバーが元気であるかぎり、今後も地域の枠を超えた、広域的に事業展開を行っていくことを目標とし、地域に根ざした子どもたちの心と身体を育む健全育成事業として次年度以降も継続する予定。

湖岸に漂着したゴミの分別調査回収事業

◇ 成果報告 ◇

特定非営利活動法人びわ湖トラスト

1-1 計画の目標

びわ湖の底には人知れず沈積しているゴミがあり、また陸からは人間が近寄りにくい湖岸域に多くのゴミが漂着しているという現実がある。通常、なかなか回収しにくい湖岸域や湖底のゴミを、漁船やカヌーを使って回収することを目的として、本事業は実施している。具体的には、地元住民・漁連・協力団体・当 NPO 会員や一般の親子などに参加してもらい、びわ湖の現状に触れながら、現実の環境をじっくり考え、修復するという場を作り出したいと考えている。

1-2 目標の達成度

2014年3月23日に、沖島で漂着ゴミの回収活動を行った。びわ湖トラスト（30名：中国人留学生・京大教育研究会の学生を含む）、NPO 法人明るい社会づくり運動滋賀県協議会・立正佼成会（50名）、地元沖島漁連や消防団（20名）の参加があった。当初予定の参加人数 130 名には届かず、カヌーの活用も十分できなかったが、回収作業の成果としてはほぼ目標を達成できた。

親子や留学生を含む学生の参加もあり、TV 放映がされたことも併せて、琵琶湖環境の啓蒙がある程度できたものと考えている。

また、2014年2月25日には、当初計画になかった台風 18 号による河川から流出した大量の流木の実態調査を行い、びわ湖における漂流シミュレーションを行った（琵琶湖漂着流木に関する実態調査）。

以上のことから、当初の目標は、ほぼ達成できたと判断している。

2 活動の成果

沖島では、今年の台風・豪雨で琵琶湖に流出し西側湖岸に打ち寄せられた大量の流木や大型ゴミを回収でき、大型トラック 2 台分となった。ゴミ回収についての他の団体との連携、近江八幡市環境課に回収後のゴミ処理など、協力関係も円滑に進んだ。

琵琶湖漂着流木に関する実態調査では、琵琶湖北湖に流入する三大河川から流出した流木の漂流シミュレーションを行い、それぞれが漂着する湖岸を推定することができた。無作為抽出した領域の流木の重量から、琵琶湖東岸 25 km に一様に流木が存在すると想定すると、約 860 トンの流木が漂着したことになる。

3 今後の課題、その他

船を使ったゴミ回収という取り組みの宿命として、天候に著しく左右されることがある。この計画も当初 2013 年 10 月に実行することを予定していたが、台風接近のため実施できなかった。その後再度予定日を設定したが、それも悪天候で流れてしまった。結局実施できたのは年度末ぎりぎりであった。このような内容の取り組みで 100 名以上のボランティア参加者を集めることは大変で作業で、また、各団体間の調整を何度も行うのはかなりの労力を必要とした。

今回、回収した大型ゴミの中にはタイヤや冷蔵庫などの家電ゴミなどがあつた。タイヤに羽が生えてびわ湖へ飛んできたのではない。家電製品の数々もすべて人の手で捨てられたモノである。県

内各地で行われているびわ湖の清掃活動を支援するとともに、我々もこの活動を根気強く継続していくしかないのだろうという感想を持った。



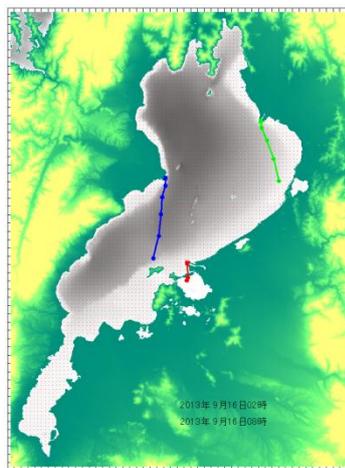
沖島ゴミ回収



沖島ゴミ回収



流木調査（新海浜）



3 大川からの流木漂流シミュレーション

平成 25 年度 いぶき自然観察会

◇成果報告会◇

鴨と蛸の里づくりグループ

1-1 計画の目標

NPOや地域の自治組織の活動の期待が、年々高まっている。そんな中、自然環境を大切に活動や、木の実を利用したクラフトづくりや、自然と遊ぶ活動を大事にした活動をぜひとも、地域で推進していきたいと考え、1年間に7回の自然観察会を計画し、地域の自然に目を向けてもらおうとした。

できるだけ、中学生や小学生に広く呼びかけ、低年層へのチャレンジを試みた。地域の宝である伊吹山のお花観察会、春の野山を歩こう、秋の野山を歩こうは、今一度、地域の自然の様子をじっくりと見てもらうために計画した。

1-2 目標の達成度

(1) 春の野山を歩いてみよう 4月28日実施

米原市の山東庁舎から出発し、伊吹の薬草の里文化センターを経由し、悉地院まで行き、地域の文化財にも触れた。そして、山東庁舎まで戻ってきた。

参加者おとな 13名、こども 3名であった。

(2) 伊吹山頂のお花観察会 7月27日実施

バスをチャーターし、米原公民館を出発し、山東庁舎を経由し、伊吹山ドライブウェイを通り、山頂の駐車場まで行った。その後、遊歩道をゆっくりと歩きながら、お花畑のお花を観察しながら、頂上まで目指した。頂上でのお花の観察と、東遊歩道を通って、駐車場まで、戻った。その後、山東庁舎、米原公民館と帰路についた。

参加者おとな 27名、こども 5名であった。

(3) 醒井の松尾寺山の丁石を訪ねて 8月3日実施

上丹生を出発し、坂口登山口を経由し、六地藏、本堂跡、ゲバントハウス、松尾寺里坊、そして上丹生と帰路に着いた。多くの丁石や、石道など貴重な文化財にふれることができた。

参加者おとな 1名、こども 2名であった。

(4) 横山城跡と観音寺を訪ねて 9月28日実施

観音寺正門前に集合し、本堂の様子などを観察しながら、どんぐりを拾った。坂道をクネクネと登りながら、横山城跡南に着き、史蹟や、修復中の釣鐘を観察した。その後、横山城北に登り、長浜、浅井方面を見下ろした。そして、村居田の臥竜公園に到着した。

参加者おとな 7名、こども 0名であった。

(5) どんぐり拾いとネイチャーゲーム 10月12日実施

三島池周辺を一周しながら、ところどころで、どんぐりを拾って、親子で、はっぱを集めたりしながら、ゲームをした。また、木の葉の種類や、どんぐりなどの木の実を集めた。

参加者おとな 3名、こども 5名であった。

(6) 秋の野山を歩いてみよう 11月9日実施

山東庁舎を出発し、黒谷大平林道を通り抜け、清滝山に登り、徳源院に到着し、JR柏原駅まで行き、近江長岡駅まで電車で帰路についた。

参加者おとな 17名であった。

(7) 木の実のクラフトづくり 11月30日実施

主催者側で、いろいろな木の実を準備しておいて、各自の参加者が、各自の思い思いの3作品を作っていたいて、お持ち帰りいただいた。

参加者おとな 1名、こども 13名であった。

2 活動の成果

伊吹山の自然観察会は、参加者も多かった。中学校の科学部員の参加もあり、大変有意義であった。参加者からの評判もよく、ぜひ来年も実施してほしいとの声をいただいている。そして、どの実施回も天候に恵まれて、活動がしやすかったことも挙げられる。今回の活動は、小学生や中学生の参加があり、若者への環境教育に役に立った。

また、地域の史蹟など、歴史的なことを踏まえて、活動することができて、この観察会への参加を促すことにつながった。中学生の参加を募集することにより、こどもたちへの自然への興味関心を高めることができた。春の野山、伊吹山のお花畑、秋の野山への参加が多く、自然環境の大切さを実感することができて、良かった。木の実のクラフトづくりで、子供たちの喜々とした作品づくりは、指導している者にとっても、感動であった。松尾寺の丁石の歴史的なものを観察することによって、歴史文化の大切さを、知ることができた。地元の三島池周辺でのどんぐり拾いや、ネチャーゲームでは、どんぐりで遊んだり、葉っぱなどを使ってあそんだりできて、親子の触れ合いができた。・・・など、多くの成果が得られたことは、これらの計画を実施した者にとっては、この上ない喜びとなった。

3 今度の課題、その他

特に、伊吹山お花観察会の時のバスの借用のときに、人数の把握がなかなか難しく、借入台数が直前まで決まらず、苦労した。せつかく、募集をしても、確実に人が集まるとは、かぎらないので、安定した人数の確保が難しいと痛感させられた。今後さらに人集めの工夫を図っていきたい。そのためには、事務所などを常時設置し、いつも疑問や要望に応えるシステムをつくることも大切である。

また、今回、若者へのチャレンジも、取り組んだので、機会あるごとに、今後も取り組んでいきたいと考えている。



<伊吹山の山頂付近>



<松尾寺の山道>

未来ファンドおうみ助成事業2013
先祖から伝わる南滋賀の里山再生を通じ、地域の連帯と活性化をはかる

◇ 成果報告 ◇

南滋賀の里山を守る会

1-1 計画の目標

山林所有者が江戸時代から守り育ててきた山林を将来において持続的に守り育てる仕組みを作るために、平成23年に「持ち山を考える会」を発足した。さらに地域一般の方にも防災と環境保全における山林保全の大切さを伝え、地域の連帯と活性化を目的に平成24年に「南志賀の里山を守る会」として再発足した。

この事業により、地域一般の方と山林所有者がともに間伐や木育活動を行うことにより、互いに森林の持つ大切さを認識し、地域の連帯と活性化につなげたい。

1-2 目標の達成度

① 丸太イス作り 7月31日(水) 代表者宅 参加者 4名

② 間伐イベント(間伐作業)

実施日 11月3日(祝・日) 9時~13時

場 所 奥の谷

参加者 12名

参加対象 山林所有者 地域一般住民

内 容 当日は午後から雨降りとなったが、まずは午前中。作業はできた。間伐も昨年に引き続き同じところを行った。今回で3回目、中ほどまで完了した。



間伐作業風景

◆ 11月3日、同時進行の行事

近江神宮 流鏝馬(やぶさめ)神事の催しで、「南滋賀の里山を守る会」のPRを行った。

③ 林道整備

実施日 11月10日(日) 場 所 奥の谷 参加者 15名

11月24日(日) 場 所 小家の谷 参加者 11名

12月 1日(日) 場 所 中の谷 参加者 18名

④ 椎茸の原木出し 1月25日(土) 場 所 中の谷 参加者 4名

⑤ 間伐を利用したイベント

実施日 2月16日(日) 9時~15時

場 所 大伴太市郎宅広場 大津市南志賀2丁目16-22

参加者 50名

内 容 ・杉材を使って丸イスを製作

- ・クヌギ等の原木に椎茸の菌打ち
- ・ロケットストーブの製作実演
- ・割り木割り
- ・かまどで汁や焼き芋づくり他



椎茸の菌打ち

2 活動の成果

(気づいたこと)

- ① 間伐材を利用したイベントでは町内の子供会に参加の依頼をしたことで大いに盛り上がった。やはり、次世代の親子への呼びかけは必要である。
- ② 間伐イベントではどうしても山での作業になることと、間伐はチェーンソー講習受講が必須であることから、子供会への参加要請も遠慮しがちでどうしても全体の参加者が少なかった。
- ③ 林道整備は従来どおりに実施しているが、昨年の台風の影響は被害も甚大で今後の取り組みを再考する必要がある。

3 今後の展望、その他

- ① 活動の幅は徐々に広がっていて、HPの広報からも他団体からの問い合わせも来ている。
- ② 広報にこれまで以上に予算をつけてPRを充実したい。
- ③ 間伐イベントの内容を見直して参加者を増やしたい。
- ④ 今後、他団体との交流を通じて山林整備や木育活動に力を入れていく。

ア 計画目標と目標毎の達成度

4月で設立10年目を迎える本会は、里山の復元面積も広がりたくさんの里山体験を受け入れている。自然を大切に子ども達の育成、里山づくりを市民に広げること、元気な里山の維持が本会の現在の使命である。元気な里山で遊んだり働いたりする人たち、恵まれた自然の中で生きる生き物たちがみんなみんな元気になれるよう、保全活動を継続していくことがこの事業の目標である。

1 園児による保全活動（春）（秋）

落ち葉かき（205名） サツマイモ苗植え（38名） 芋畑の草引き（39名） 収穫（37名）

落ち葉で焚き火（230名） 焼き芋づくり・焼き芋の試食（230名）

- * 落ち葉かきの経験は殆どの園児になく、小さな熊手を持ったときは戸惑っているが、慣れてくるにつれおもしろくなっていくのか、協力しあって真剣に働き出す。そして、「きれいになった。」「楽しかった。」と言う。その落ち葉で里山でしかできない落ち葉焚きをして、自分でアルミホイルに包んだサツマイモを投げ入れ、里山遊びが終わったら焼き芋のできあがりという段取り。あつあつの焼き芋をどの子ども「おいしい、おいしい。」「おかわりがほしい。」という。秋の里山体験の楽しみであり園児たちに大人気。5歳児はすべての園児対象に行った落ち葉かきと4歳児にも参加させた焼き芋づくりは数的にも園児の満足度や里山保全活動の面からも100%目標は達成できた。



2 生き物の棲みやすい環境づくり（春） —— 積水化成品社員も参加 ——

日時 2013年5月25日（土） 定例活動日

参加者 積水化成品社員(3名) 海老名市修学旅行生(9名) 淡海文化振興財団(1名)
会員(14名) ホストファミリー(3名) こどもの森講師(1名) 合計31名

内容 ① 元気会の今までの歩みについて知る。 ② 遊歩道を歩きながら里山を観察する。
③ 湿地帯の整備前と今について知る。 ④ 湿地帯の生き物を見つける。
⑤ 沈んでいる木や低木を除去する。 ⑥ ドクゼリやミゾソバなどの雑草をとる。

- * 講師を招いて行った湿地帯の生き物学習ではたも網を持ってメダカやヤゴ、おたまじゃくしやザリガニなどごく普通の生き物をはじめ、カスミサンショウウオやアカガエルなど絶滅が危惧されている珍しいものも見つけられ講師の先生の話に耳を傾けた。その後、長靴をはいて湿地帯に入り水面に浮かべた容器に水の中に落ちている低木や枝を入れ、木道にいる中学生が一輪車に入れ直し運ぶという仕事を繰り返した。その結果、花をつけたクリソウが美しく浮かびあがった。3名の参加社員は会員や中学生と自然観察や保全活動をするうちにその楽しさを実感し熱心に取り組んでもらえた。しかし、参加社員の数から目標達成度は70%の評価である。



3 会員と積水化成品社員による里山復元活動（秋）

日時 2013年11月9日（土） 定例活動日

参加者 社員と家族13名(大阪10名、水口3名) 淡海文化振興財団(2名)
会員(10名) 合計25名

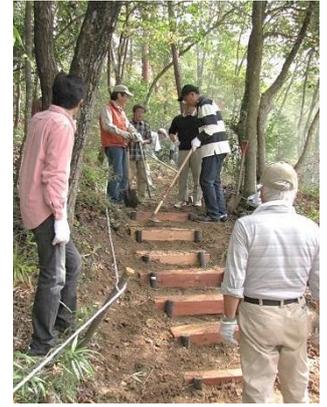
内容 ① 元気会の今までの歩みについて知る。 ② 遊歩道を歩きながら里山を観察する。

③ 遊歩道の整備

④ 階段の設置

⑤ 落ち葉かき

* 春の反省を踏まえ、会社の担当者と緊密に連絡をとりあい、遠い大阪から10名の社員の参加があり、社員の子どもさん3名の参加もあって仲良く和やかに活動できたことが何より良かった。会員の助言により社員さんが遊歩道と斜面の階段の設置を2グループで分担し、若いパワーで力強く積極的に仕事を進め、見事な階段とツリーハウスまでの遊歩道が完成した。女性社員と子ども達はその周辺の落ち葉かきを担当した。大阪からの10名は朝早くの出発でたいへんだっただろうが、水口工場からは非常に近いので参加を増やしたい。また、春の参加者がリピーターになってくれなかったのは残念である。目標達成度は90%。



イ 活動の成果

落葉樹の多い広い里山で会員による落ち葉かきまでとても手が回らないが、たくさんの園児の保全活動により短時間に見事に美しくしてくれる。そして、春にはいろいろな色のスマレやショウジョウバカマやシュランなどが咲く。景観がぐっと良くなり生物多様性に繋がっていく。また、園児たちの働いている様子や声を聞いていると、自然の中で働くことや観察することのすばらしさや楽しさを実感しており、自然を大切にすると子ども達に成長すると信じる。

社員参加の里山復元保全活動は同じ地域のNPOと企業が手を結んで、基金助成とボランティア活動の両面から地域の環境保全に企業が寄与するというモデルであると考え。地域の企業の社員に現場に来てもらい一緒に活動することによってその活動の実態を知ってもらい、本会の会員になったり、積極的に身近な場でボランティアに参加してもらえるきっかけになったりして、里山づくりを市民に広げること結びついてほしいものである。

ウ 今後の課題、その他

この事業で取り組んだ里山復元保全活動は毎年、継続して実施されなくては生物が棲みやすい環境を保つことはできない。本会が里山にたくさんの子ども達を受け入れ活動を続けていることは市内でよく知られるようになった。そこで、地道に活動を継続していくことの重要性を痛感し、安全確保を最優先し子ども達や社員と共に活動していけることが課題である。そのためには、活動内容に楽しさ・すばらしさ・深まり・広がり等、会員の負担にならない範囲で工夫を重ねていくことが大切である。自然豊かな里山での遊びを知らない子ども達や社員を含め保護者世代に、子どもの頃、野山を駆け回って遊んだ会員世代がその楽しさ、すばらしさを伝えていき、こんな里山を守り復元していこうと自ら立ち上がってくれることが大きな課題である。

また、積水化成品の他にも今回のような事業に取り組んでくれる企業や社員のボランティアを受け入れる団体を市内に増やすPRをしていくことも課題である。

以上

未来ファンドおうみ助成事業2013「おうみチャレンジ基金助成」 《成果報告》

認定特定非営利活動法人

おうみ犯罪被害者支援センター

1 計画と達成手段

1-1 計画の目標

犯罪被害件数は年間約13,000件近くが発生、県民の約1%が何らかの被害に遭っておられると考えられます。

おうみ犯罪被害者支援センター（略称OVSC）は、犯罪被害に遭われ身体の被害ばかりでなく財産や予想も出来ない心の深い傷等、何時までも残るキズは当事者でないとは理解出来るものではありません。

この様な犯罪被害者に対してOVSCの犯罪被害者支援活動員は専門的訓練を受け、実習を重ね「一人一人に必要な支援を必要なだけ」支援する事を基本としております。

犯罪被害のように、不特定の方々に降りかかる問題に対するOVSCの支援活動の財源は、県民の皆様から賛同を得た個人や種々の団体からの寄付金・助成金あるいは地方公共団体からの事業委託金等によって成り立っております。

今回「おうみチャレンジ基金助成事業」では、安定したOVSC活動資金として

② 2年間で200万円の寄付金・助成金や会費を増やす。

②NPOから認定NPOとして認証され、税金控除制度が活用出来る様にする。

この2つの目標を2年間で達成する事とし、少しでも多くの安定した財源が得られるよう活動致します。

1-2 目標を達成するための手段

OVSCでは「おうみチャレンジ基金助成事業」目標を達成するには、資金集めをする人、すなわちファンドレイザーが必要ですが、現事務局員による活動には時間的余裕がありません。

この為、ファンドレイザーとしてOVSCの養成講座受講者で犯罪被害者支援を基本的に理解した人から選定させていただき事としました。

又、ファンドレイジング活動を行う費用（人件費や交通費等）についても新たに財源が必要である事は言うまでもありません。

幸い、金融庁が平成25年度より預金保護制度による拠出金の一部を犯罪被害者支援に活用の方針を決められ、「団体運営の自立に向けた仕組みづくり」をテーマとして人件費を得られるよう募集し、助成（預保納入助成金）が認められ、この助成金を活用する事によって「おうみチャレンジ基金助成事業」活動も同時に前進させる見通しが得られました。

2 活動の成果

OVSCが安定した活動資金システム作りのため、ファンドレイザーの雇用契約とファンドレイジング指導者との業務委託契約を行いました。

2-1 分析と活動

(1) OVSCの活動資金分析

① 個人や企業・団体の継続した財源的支援をしていただけない理由と対策

② 賛同者動向と効率的活動

(2) ファンドレイジング活動計画

① 活動の具体的目標の設定

② ファウンダーに対する説明資料の作成

(3) 安定的ファウンダー対策立案

① ロイヤリティー（優位性の誇示）の作成

② 賛同者の集い（価値観の共有）

(4) 具体的活動の成果

2013年度 収入状況

円

科 目	予 算	決算（見込み）
助 成 金	600,000	4,345,000

会費・賛助会費	1,400,000	1,452,000
寄付・募金 (内 おうみチャレンジ基金)	2,000,000 (1,000,000)	1,397,298 (200,000)
講演費	300,000	861,600
事業受託費	3,106,000	3,556,710
合計	8,406,000	11,852,608

2-2 認定NPOの認証

(1) 認定NPOの申請

2014年2月13日 滋賀県県民活動生活課に申請

(2) 認定特定非営利活動法人として

2014年3月13日 認証される

3. 今後の課題

(1) 計画目標の達成

「財政的自立を目指すための財源安定化事業」の達成を目指すため、2014年度もファンドレイザー雇用を実現させるため、2014年度も預保助成事業として再度人件費、交通費等の助成を申請、2名のがファンドレイザーが認められた。

又、認定NPOとして認証された事により、寄付者に税金控除制度を利用いただけ寄付金・会費等の増加を期待して活動に力を入れる。

これらを背景として、2013年度立案した基本計画に則り、2015年度を目途に活動財源安定化を目指す。

(2) 「おうみチャレンジ基金」による成果と今後の活動

- ① 認定NPO申請にあたり、公益社団法人淡海文化事業団には会計処理方法についてご指導いただき、認定がスムーズにはかどった。
- ② 会計ソフトの導入に指導いただきNPO会計が正確に実施。
- ③ 未来ファンドおうみ助成事業2013「おうみチャレンジ助成」はOVSCの目標達成により今年度で完了したが、引き続き活動資金安定化を目指し協業を続けられることを構築したい。

活動資金安定化のために努力されている他のNPO事業者に対し、これらの活動で得られたファンドレイジング活動のKnowHowを共有できる支援も考えたい。